

事を町内全域で行っており、本年4月1日から運用する予定としております。これにより、台風・地震・津波等の自然災害の情報および避難に関する情報等を各戸へ確実に伝達することができるようになります。また、地域のコミュニティ無線として、集落単位でこれまでの有線放送に代わるものとしての使用も可能となります。

災害は、いつどんな形で発生するか予測できないことではありますが、日頃の備えや心構えによりまして、その被害を小さくできると考えておりますので、町民の皆様におかれましては、日々身の回りの自然の変化等に気を付けていただき、もしもの場合に備えていただきたいと思います。

東九州自動車道は、平成26年度中に鹿屋市まで開通することになりました。同時に、野方インターチェンジも開設され、いよいよわが町から高速に乗れる時代が近づいてまいりました。野方インターチェンジを降りたところには、『道の駅』を整備する計画でありまして、開通式までにはオープンする予定であります。今後町の特産品等の情報発信の機能にも期待が寄せられております。

県立有明高等学校の統合後の跡地利用問題につきましては、県の方で滞在型スポーツ合宿施設を整備していただけることとなりました。大隅半島では初となります、一流選手から高校・大学の合宿まで幅広い層を受け入れることのできる本格的なトレーニングセンターであります。全容につきましては、近々県の方で基本構想がまとまる予定であります。町にとりましても、地域活性化の重要な核になるものと期待しております。

大隅半島を舞台とした映画『マンゴーと赤い車椅子』の製作発表会が先月東京で行われました。これは、本町ゆかりの有志の皆様が発案により始まったものであり、映像を通して大崎・大隅半島の魅力・知名度アップ、映画づくりに携わる若者等の人づくり・夢づくりにつながることを期待しています。なお、全国公開は平成26年秋を予定しているのとこのことです。

平成27年には『第30回国民文化祭・かごしま2015』が開催され、本町も横瀬古墳がテーマ会場のひとつになることが決まっております。また、昨年は2020年のオリンピックおよびパラリンピックが東京で開催さ

れることが決定しました。折しもその年は、鹿児島県におきましては、昭和47年の太陽国体以来の2巡目となります国民体育大会が開かれることとなり、今後、文化・スポーツに關しては明るい話題に事欠きません。

4月から消費税が5%から8%に引き上げられることとなり、暮らしへの影響が懸念されているところですが、本町を取り巻く環境も依然として厳しいものがございます。私はいかなる環境の中にあっても、大崎町で暮らす人々が安心して暮らせる地域社会の構築と、将来を担う子どもたちが安心して暮らせる未来、そして地域の人々の心の拠り所となる誇りある郷土をめざすとともに、『豊かな自然が宝物 みんなで紡ぐ結いのまち』の創造に向け、職員とともに今後も更なる努力を重ねてまいりますので、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

今年が『午年』です。町にとりましても、大きな飛躍の年になるのではないかと期待しております。この一年が、皆様にとりまして希望に満ちた素晴らしい年になりますことを祈念し、年頭のあいさつといたします。

大崎町長 東 靖弘